

低線量肺がんCT検診のご案内

肺がんの早期発見のために

がんによる死亡者数の第1位は肺がんです。(男性: 1位、女性: 2位)

肺がんは日本人のがん死亡者数の第1位であり、1年間におよそ7万人が亡くなっています。

とくにおすすめするのは

50歳以上の方

近親者に肺がんになった方がいる方

喫煙する、あるいは喫煙していた方



肺がん発見率は、胸部エックス線検診に比べて約10倍

CT検診による肺がん発見率は、胸部エックス線検診に比べて10倍程度高く、また発見された肺がんは早期の比率が高く、そして実際に発見された肺がんの8割以上は、比較的早期の"治る状態"にあったことがわかっています。

放射線被ばく量は10分の1程度

放射線被ばく量は、通常行われるCT検査の10分の1程度。胃部レントゲン検査の5分の1以下の少ない量です。検診においては、大多数の人が健康な状態にあるため、不必要な放射線被ばくは避けるべきであると考えられます。低線量肺がんCT検診では、「がん」として診断可能な5mm以上の結節影を検出できる放射線量に抑えられています。

低線量肺がん検診の成績

2010年11月、米国国立がん研究所(NCI)は、約5万人の55歳から74歳の喫煙者を対象とした研究を行いました。その結果、低線量肺がんCT検診を年1回繰り返し受けることにより、肺がんによる死亡率が約20%低減したと報告されています。

検査方法について

検査のベッドに仰向けになり、合図に合わせて約10秒間息を止めている間に、X線を利用して肺全体をスライス状に撮影します。

所要時間は約2-3分で、検査に伴う痛みはありません。